

平成30年度 【 学園研究費助成金＜ B ＞ 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ トミダ カズコ
氏名 富田 和子

研究期間 平成30年度

研究課題名 明治前期岡崎文壇の一側面 一蚊雷居巴太郎の文事を手がかりに一

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	富田 和子	生活科学部	助教
研究分担者			
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

明治前期の西三河の岡崎文壇の情勢について、蚊雷居近藤巴太郎の出版人としての活動と狂俳点者・狂俳作者としての活動を調査することをとおして、明らかにすることを目的とする。巴太郎は狂俳書だけでなく、新聞「額田懸壺記聞」(ぬかたけんきょうきぶん) (明治5年) や『古事記標註』(明治7年)、『地理初歩』(明治9年)、『音韻究理授業法』(明治10年) などさまざまなジャンルの出版を行った。そして、出版人として名古屋や浜松などに寄留して活動し、東京とも関わりを持っていた。そこで、当時、多くの人々が地方から東京へ向かう動向の中で、地方の出版人が目指したところを明らかにしたい。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

蚊雷居巴太郎の出版人としての活動と狂俳点者・狂俳作者としての活動について調査するために、主に、巴太郎の居所と、岡崎の書肆仲間と共に結成した三盟社(舎)に関する資料を収集し分析する。具体的な方法は、次のとおり。

1. 豊橋周辺や岡崎市図書館等で、巴太郎関係の資料を収集する。
2. 岡崎及び豊橋周辺で実地踏査及び聞き取り調査を行う。
3. 国会図書館等で、出版仲間の深見藤吉・稲岡左橘・天野重助らの資料を収集する。
4. 東京の桑弧社や東京に進出した三盟社とのかかわりを調査する。
5. 新たに収集した資料を加え分析する。
6. 論文にまとめる。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

「書肆 蚊雷居近藤巴太郎の活動と狂俳—明治前期岡崎文壇の一側面—」〔椋山女学園大学研究論集・2019年(3月刊行予定)・50号人文科学篇〕では、まず、明治時代前期の巴太郎の出版人としての活動と狂俳点者・狂俳作者としての活動から、巴太郎の居所の変遷をたどった。次に、巴太郎はこの時代の潮流の中で、西三河の岡崎の書肆仲間(出版者)と組んで三河で最初の新聞「額田懸彊記聞」を創刊したり、三盟社(舎)を結成したりした。この三盟社(舎)は、その後、岡崎から豊橋、浜松、更には東京に進出する。そこで、その周辺の人たちとの活動を探ることから、地方から東京へ向かう出版界の動向の一端を窺い、岡崎文壇を支えた一側面を窺った。そして、巴太郎は「雅用風交録」をめざした豪華本の『狂俳道しるべ』初編を発行したり、新しい狂俳雑誌を作ろうとしたりした。岡崎康生町三十九番邸に居住した時は、有名な伊藤小文司(環翠堂 本文書店)や卓池系俳人の植田石芝の近所で、彼らの影響を受けたであろうことは間違いないであろう。晩年には、当時、混乱していた名古屋の水音社ではなく、東京の桑弧社とかかわり、三河第一支部長を務めるほどに狂俳を愛好した。そこで、巴太郎の狂俳句を、テーマ別に一部紹介した。選ばれた句は点者の好みもあろうが、文明開化の息吹を感じるものもあれば、文学好きであることや美食家の一面を感じるものもあった。

なお、桑弧社では「優老」とも称され、謹厚な人柄が窺えた。しかし、巴太郎については、生没年をはじめとして、まだ不明な点も多いので、今後の課題としたい。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 狂俳	② 三盟舎	③ 蚊雷居巴太郎	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

今後の研究成果公開予定・方法

富田和子「書肆 蚊雷居近藤巴太郎の活動と狂俳—明治前期岡崎文壇の一側面—」椋山女学園大学研究論集・2019年(3月刊行予定)・50号人文科学篇・P21・P32(縦書き)